

芝生の総合病害防除剤

ベントグラスの

かさ枯病に適用拡大!!

かさ枯病とは  近年被害が拡大しつつある細菌性病害です。

ドウグエリン

水和剤

藻類の予防にも

● 雪腐病・葉枯病など芝を侵す各種病原菌に優れた予防効果を発揮します。



使用方法

*本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用病害名・雑草名	希釈倍数	使用時期	総使用回数*		使用方法
				本 剤	有 機 銅	
芝 (日本芝)	ヘルミントスポリウム葉枯病 カーブラリア葉枯病	250～500倍	発病初期	3回以内	5回以内	1㎡当たり1ℓ散布
芝 (ベントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ) ヘルミントスポリウム葉枯病 カーブラリア葉枯病					
	立枯病(テイクオールパッチ)	250倍	根雪前			1㎡当たり0.2～0.25ℓ 散布
	紅 色 雪 腐 病	80～100倍				
	雪 腐 小 粒 菌 核 病	40倍				
	藻 類	80～120倍	藻類発生前			1㎡当たり0.2～0.3ℓ 散布
	コ ケ 類		コケ類発生前～生育期			
か さ 枯 病	200倍	発病前～発病初期	1㎡当たり0.5ℓ散布			
ま つ	葉 ふ る い 病	1000倍	生育期	4回以内	散 布	

平成23年9月20日現在



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19

かさ枯病《変色率》

試験成績

年 度：平成17年度

試験場所：(財)関西グリーン研究所内

試験方法：ポット試験

作物名：ベントグラス

散布日：平成17年11月2日

防除価：黄色～赤褐色葉率の平均値から算出したものを()内に示した。

一：薬害なし

供試薬剤	希釈倍数 (散布水量)	区制	葉色度及び黄褐色～赤褐色葉率					薬害
			処理直前 (11/2)	接種直前 (11/5)	接種4日後 (11/9)	接種7日後 (11/12) (直立茎の伸長度)	黄～赤褐色葉率(%) (11/12) 防除価	
ドウグリン 水和剤	200倍 0.5ℓ/㎡	I	7	7～6	4～3	4～2 (2～3)	15.4	—
		II	7	7～6	4～3	4～2 (2～3)	13.6	—
		平均	7.0	6.5	3.5	3.0 (2.5)	14.5 (62)	
無処理・ 接種		I	7	7	3	3～1 (2)	37.6	
		II	7	7	3	3～1 (2)	39.4	
		平均	7.0	7.0	3.0	2.0 (2.0)	38.5	
無処理・ 無接種		I	7	7	7～6	6 (3)	8.7	
		II	7	7	7～6	6 (3)	7.3	
		平均	7.0	7.0	6.5	6.0 (3.0)	8.0	

かさ枯病《罹病葉率》

試験成績

年 度：平成18年度

試験場所：(財)西日本グリーン研究所
試験圃場

試験方法：プラスチック鉢試験

作物名：ベントグラス

散布日：平成18年10月27日

調査日：平成18年11月6日

一：薬害なし

供試薬剤	希釈倍数 (散布水量)	区制	変色葉率 (%)	検出率 (%)	罹病葉率 (%)	防 除 価	薬 害
ドウグリン 水和剤	200倍 0.5ℓ/㎡	1区	10.2	35	3.6		—
		2区	13.6	45	6.1		—
		3区	16.2	35	5.7		—
		平均			5.1	67	
無処理・ 接種		1区	28.4	65	18.5		
		2区	26.4	50	13.2		
		3区	35.0	45	15.8		
		平均			15.8		
無処理・ 無接種		1区	1.6	0	0		
		2区	2.0	10	0.2		
		3区	2.2	0	0		
		平均			0.1		

かさ枯病《パッチ面積率》

試験成績

年 度：平成19年度

試験場所：サンライズヒルズ
カントリークラブ

試験方法：園芸用ジョロで散布

作物名：ベントグラス

散布日：平成19年4月11日
4月25日 5月9日

調査日：平成19年4月25日
5月9日 5月16日

一：薬害なし

供試薬剤	希釈倍数 (散布水量)	区制	調 査 日				薬 害
			パッチ面積率 (%) (4月25日)	パッチ面積率 (%) (5月9日)	防除価 (5月16日)	パッチ面積率 (%) (5月16日)	
ドウグリン 水和剤	200倍 0.5ℓ/㎡	I	0.0	10.0		5.0	—
		II	0.0	5.0		0.0	
		III	0.0	10.0		5.0	
		平均	0.0	8.3	17.0	3.3	
無処理		I	0.0	10		15.0	
		II	0.0	5		10.0	
		III	0.0	15		15.0	
		平均	0.0	10.0		13.3	

安全使用上の注意

- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤、ジネブ剤との混用はさけてください。
- 芝の雪腐病防除には、薬量として2.5 g / ㎡をなるべく根雪近くの晴天の日に散布してください。
- 芝のコケ類、藻類防除には、薬量として2.5 g / ㎡をコケ類については発生前から発生期、藻類については発生前に10～14日間隔で2～3回散布してください。
- 芝のかさ枯病防除には、芝生育期のかさ枯れ病発病前～発病初期に薬量として2.5 g / ㎡を7～10日間隔で2～3回散布してください。
- ベントグラスに使用する場合、夏期高温時に連続散布すると、茎葉が黄褐変することがあるので注意してください。誤って高濃度で散布すると、薬害を生ずるおそれがあるので所定濃度を厳守してください。
- 芝の生育期に使用する場合、茎葉に薬液の汚れが残ることがあるので注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

- 誤飲、誤食に注意してください。



- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください(刺激性)



- 使用時は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがい・洗眼をしてください。

- 街路・公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

魚毒性…水産動物に強い影響があるので河川、湖沼、海域及び養殖池に飛散・流入するおそれのある場所では使用しないでください。

保 管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所に保管してください。

薬剤の効果を高め、流亡を防ぐため固着剤ペタンVをご使用ください。

●使用前にラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●小児の手の届く所には置かない